

---

# 罪物語

因幡白兔

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

罪物語

### 【Nコード】

N2435BA

### 【作者名】

因幡白兔

### 【あらすじ】

僕が犯した罪の話を聞いてくれないか

高校最後の夏休み、阿良

々木暦が犯した取り返しつかない罪とは!?

大切

な人犠牲無しじゃ救えない！！

## こよみギルティ第巻話

僕は罪を犯した。取り返しがつかないほど大罪をである。物語の始まりとなる罪の話を話さずに物語を始まらない。だから少し聞いてもらいたい。

僕、阿良々木暦は八月十五日、つまり今日は生涯で最もテンションが上がった日と言えるだろう。別に八九寺が前方に歩いているのを見て襲ってしまおうとか考えてる訳じゃない。考えてるわけぞ

「はっちくじいー！会いたかったぞー！」

道ばたで小学生といろんな意味でもみ合う高校生。痛々しい・・・

「な、なにをするんですか！！アルル木さん！」

「僕はフランス南部、ローヌ川下流にある観光都市じゃない！」

「よく分かりましたね。自分でもレベルの高いボケをしたと、今ボケって言ったな!？」

八九寺はテヘッと誤魔化し話を進める

「それはそうとよく分かりましたね、アルルなんて私もフランスにあるとは知りませんでしたよ」

「まあな、羽川と戦場ヶ原に毎日みっちり勉強を教えられたら嫌でも覚えるさ」

「確か留学する予定でしたね」

「進学な、羽川じゃあるまいしな」

とかなんとか言いながら目的地に付いたので惜しいが八九寺に別れを告げる

「じゃあな八九寺」

「また会えるといいですね」

八九寺の意味深な発言に苦笑する

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2435ba/>

---

罪物語

2012年1月6日03時51分発行